

みんなで作ろう！

外傷サーベイランス委員会の 活動概要

報告者：委員長 西 秀夫



1 委員会の概要

図表1 外傷サーベイランス委員会設置

SC認証センターが示す「7つの指標に基づく活動」

指標4 あらゆる入手可能な『根拠』に基づいた予防活動の実施

指標5 外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み

指標6 予防活動の効果・影響を測定・評価する仕組み

「セーフコミュニティの指標4、5、6」をカバーする組織



2014年2月
外傷サーベイランス委員会設置

外傷サーベイランス委員会の設置

写真①



○設置:2014年2月

○委員長:秩父郡市医師会医師

○委員数:11人

○役割:

①対策委員会の取組みを根拠に基づいた活動とする助言

②予防活動の成果指標についての検証

③活動に関する情報の提供



外傷サーベイランス委員会の委員構成

委員長： 西 秀夫(秩父郡市医師会)

図表2

No.	分野	組織名称	委員数
1	医療機関	秩父郡市医師会	1人
2	教育・研究機関	東洋大学、東京大学、 日本大学 New	3人
3	専門機関	日本セーフコミュニティ推進機構	1人
4	行政機関 (データ保有)	埼玉県秩父保健所、秩父警察署 秩父消防本部、秩父市立病院	4人
5	行政機関(事務局)	秩父市(地域政策課、危機管理課)	2人

アドバイザー

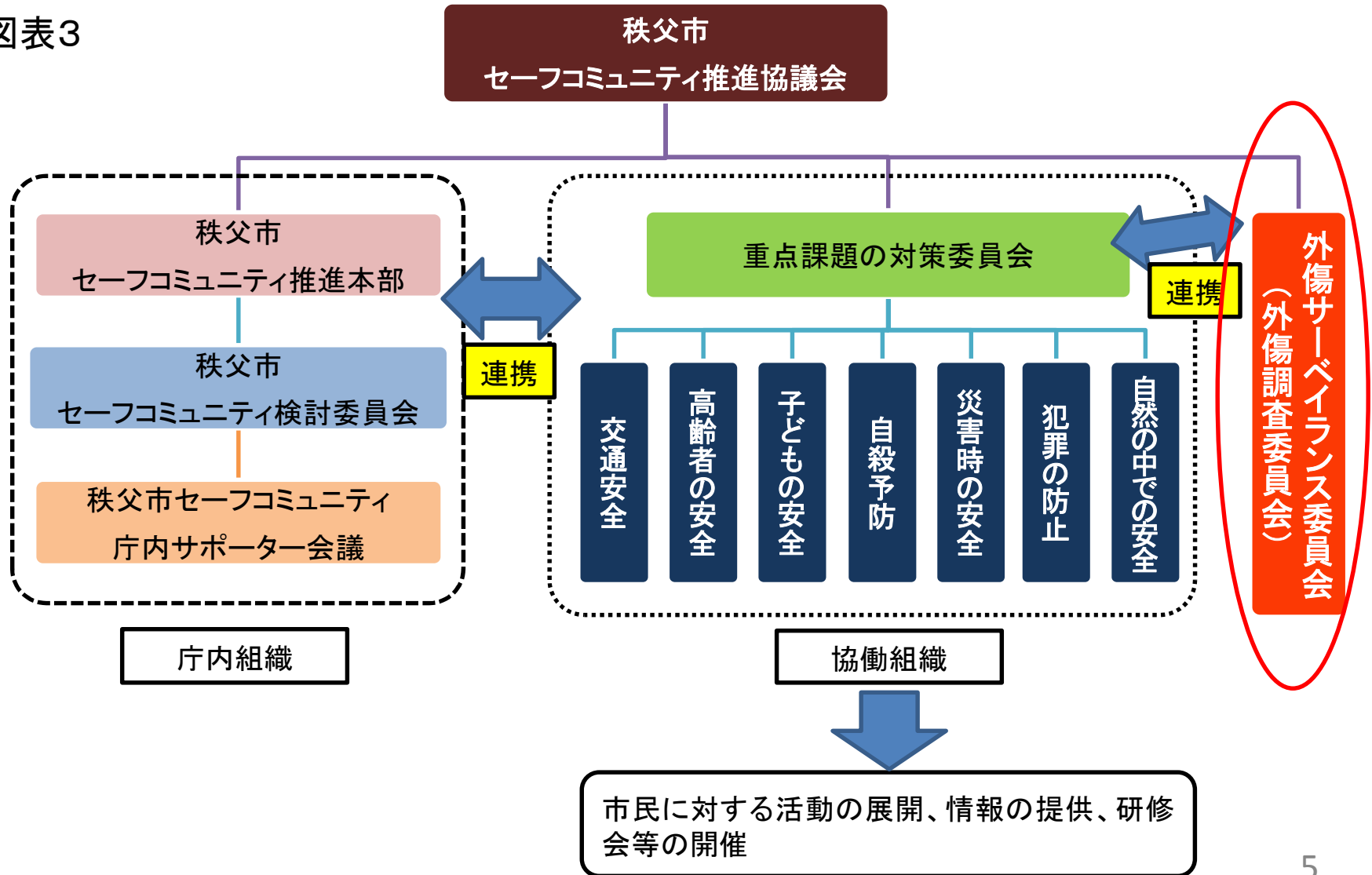
(データ収集・分析)
実務者

※外傷サーベイランスに医師会が参画する意義として、医療機関との連携の促進につながっている。



外傷サーベイランス委員会の位置づけ

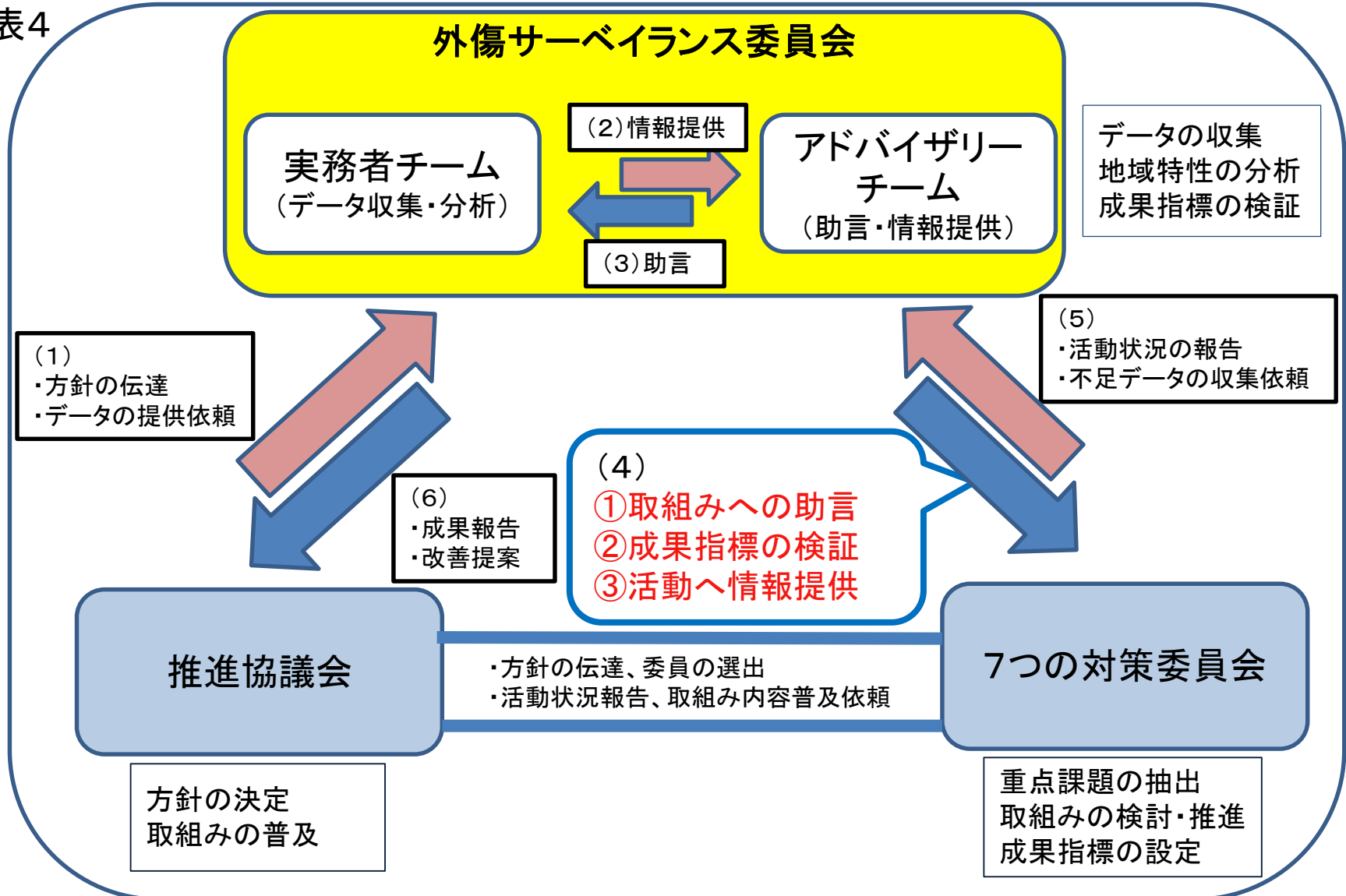
図表3





外傷サーベイランス委員会の役割相関図

図表4





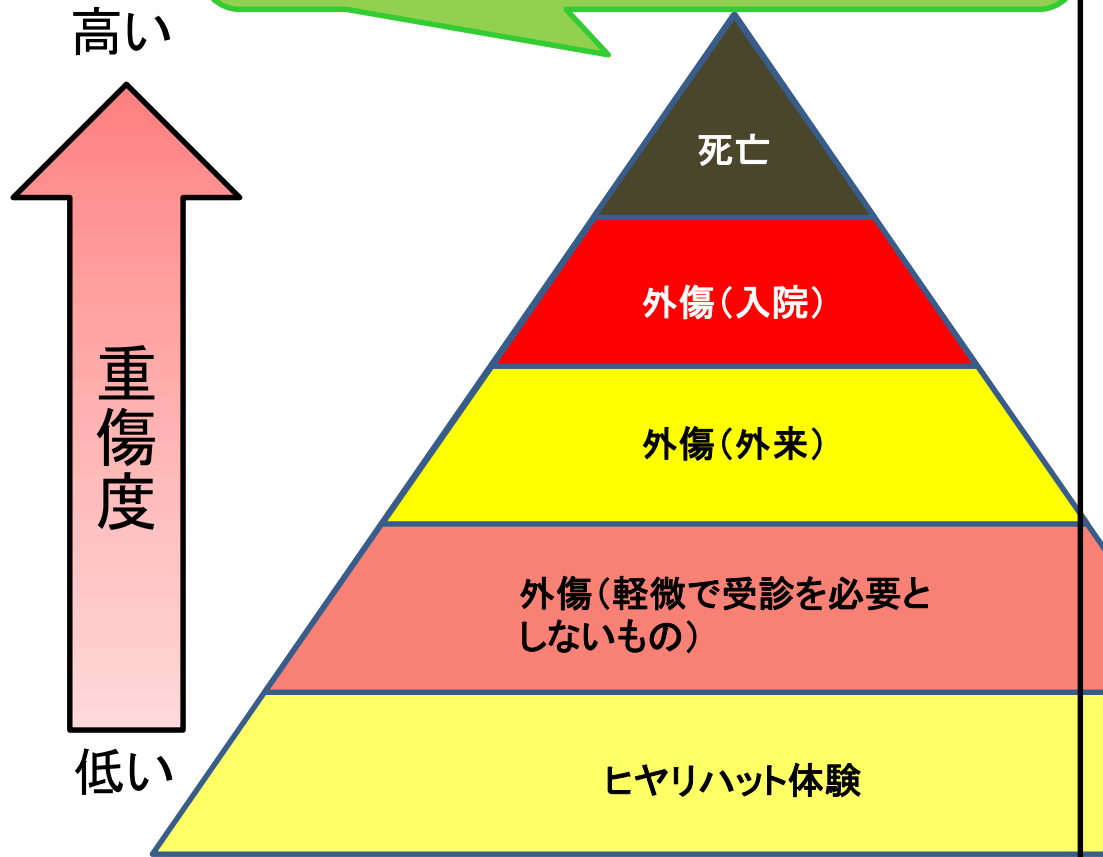
2 外傷記録の収集



外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み

図表5

日本ではすべての外傷記録を整理したデータベースが存在しない
→独自にデータ収集の仕組みを構築



＜関連する主なデータ＞

統計データ

- ①人口動態統計
- ②労働災害データ
- ③警察統計
- ④救急搬送データ
- ⑤学校災害給付請求データ
- ⑥市立病院外傷記録

独自収集データ

- a.安心安全なまちづくりアンケート(2013年・2016年・2019年)
- b.高齢者のケガの実態調査(2014年9月)
- c.こどもの家庭内でのケガの実態調査(2014年12月)



外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み

＜収集している既存の統計情報＞

人口動態統計や救急搬送データなどの既存の統計情報を利用して、外傷の発生状況を体系的に把握するため収集・分析

図表6

No	統計等の名称	実施主体	使用する情報
①	人口動態統計	厚生労働省	死亡原因、自殺情報など
②	労働災害データ	厚生労働省	労働災害に関する情報
③	警察統計	警察庁	交通事故、犯罪に関する情報
④	救急搬送データ	秩父消防本部	事故やケガによる救急搬送情報
⑤	学校災害給付請求データ	日本スポーツ振興センター	小中学生のケガの情報



外傷の発生頻度と原因を継続的に記録する仕組み

〈市で行っている既存のアンケート等の調査データ〉

図表7

No.	調査名	対象者	使用する情報
A.	市民満足度調査	16歳以上の市民	防犯・防災施策など市の施策に対する重要度と満足度
B.	高齢者日常生活圏域ニーズ調査	65歳以上の市民	閉じこもり・転倒・口腔機能・物忘れなどのリスク状況、高齢者の虐待
C.	地域福祉に関する市民意識調査	20歳以上の市民	地域社会との関わり、ボランティア活動への参加、福祉情報の入手手段、福祉サービスについて、災害時の避難
D.	障がい福祉アンケート	障害者手帳所持者	障がいの内容、生活環境、保育・教育の状況、就業状況、経済状況、悩み事や相談、地域社会との関わり、防災・防犯への備え
E.	子育て支援ニーズ調査	保育園～小学校通学世帯	病気・ケガによる休暇状況、地域社会への関わり、地域医療について



○外傷記録の対策委員会での活用

セーフコミュニティへの取組みによって、既存データの継続的な収集につながった。既存データでは把握できないヒヤリハットのデータは、独自調査により補完していく。

図表8

頻度	名称	交通安全	高齢者の安全	子どもの安全	自殺予防	災害時の安全	犯罪の防止	自然の中での安全	所管
毎年実施	①人口動態統計	●	●	●	●	●	●	●	保健所
	②労働災害データ	●			●	●		●	労働基準監督署
	③警察統計	●	●	●	●	●	●	●	警察
	④救急搬送データ	●	●	●	●	●	●	●	消防
	⑤学校災害給付請求データ			●					教育委員会
	⑥市立病院外傷記録	●	●	●	●	●	●	●	市立病院
定期的 に実施	A.市民満足度調査	●	●	●	●	●	●	●	市
	B.高齢者日常生活圏域ニーズ調査	●	●			●			市
	C.地域福祉に関する市民意識調査		●		●	●			市
	D.障がい福祉アンケート		●		●	●			市
	E.子育て支援ニーズ調査			●		●	●		市
	a.安心安全なまちづくりアンケート	●	●	●	●	●	●	●	市

3 認証後の取組み

取組みの経過(認証取得後)

回数	開催日	主な協議事項
第7回	2016年12月	①2016年安全・安心なもちづくりに関する市民意識調査 ②各対策委員会の活動状況報告
第8回	2018年8月	①各対策委員会の取組み状況 ②成果の現状(評価指標)と課題 ③各対策委員会の今後の取組み について
第9回	2018年12月	①各種データの状況 ②各対策委員会の取組み状況及び評価指標 ③本委員会から各対策委員会への指導・助言 について
第10回	2019年3月 (書面報告)	①2018年度本委員会活動報告 ②2019年度スケジュール(予定) について
第11回	2019年8月	①再認証事前指導の各対策委員会の報告資料 ②再認証事前指導の本委員会の報告資料の確認 について
第12回	2020年1月	①再認証事前指導の振り返り ②市立病院データ ③2019年安全・安心なもちづくりに関する市民意識調査 ④各対策委員会の活動状況報告
第13回	2020年3月 (書面報告)	①2019年度本委員会活動報告 ②2020年度スケジュール(予定) について
第14回	2020年7月 (書面会議)	①コロナ禍での各対策委員会の取組み状況と重点事業 ②コロナ禍でのデータ状況(2019年と3~5月で比較)
第15回	2021年3月 (書面会議)	①コロナ禍での各対策委員会の活動状況 ②コロナ禍でのデータ状況(2019年と1~12月で比較) ③各対策委員会で取組んだコロナ対策

認証取得後の取り組み内容

①ケガや事故のデータ収集・分析

- ・ケガや事故に関する外傷データを継続して収集する
- ・発生要因(原因・場所・時間など)について検証・分析する

②効果や影響などの測定・評価

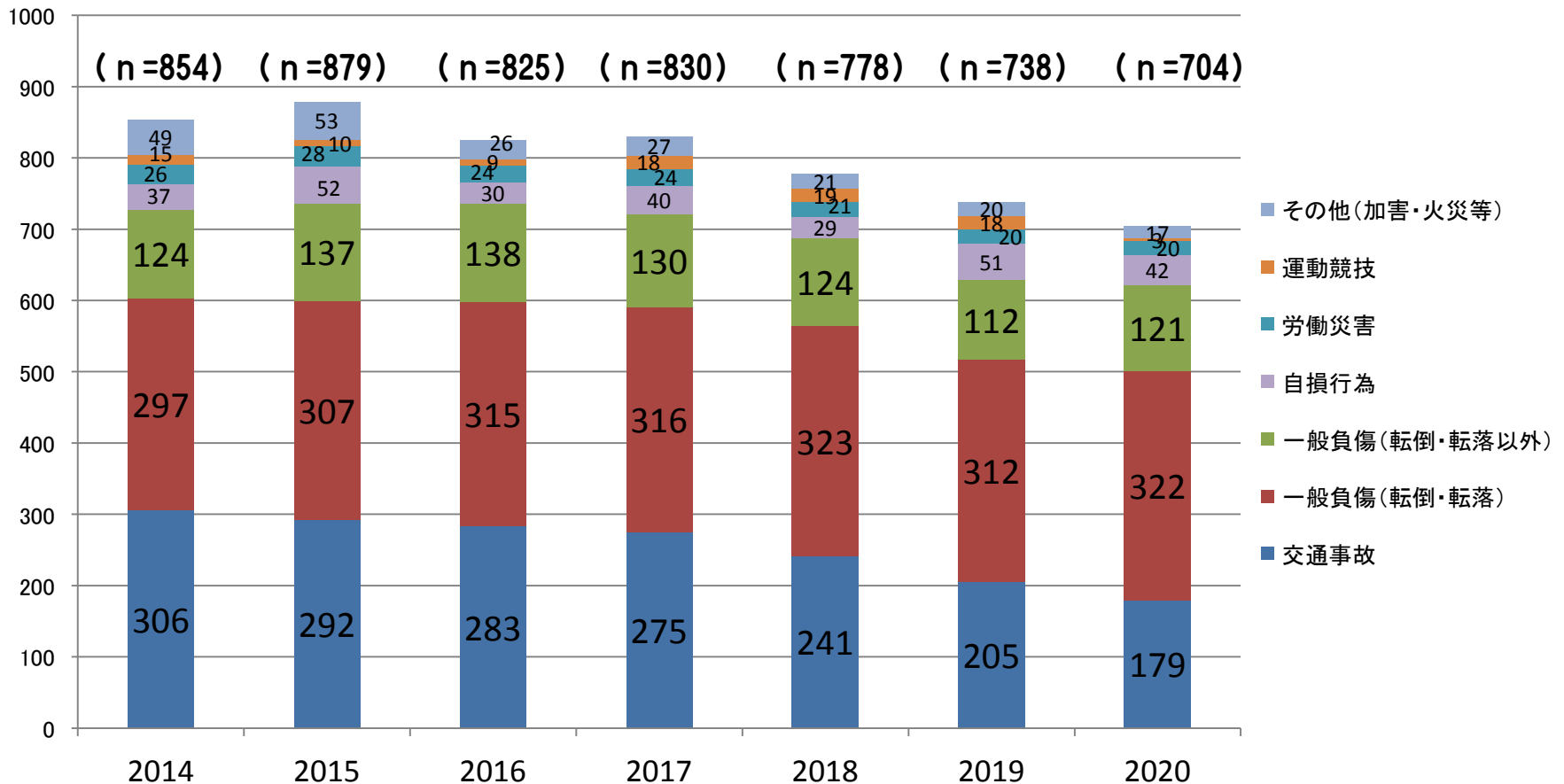
- ・対策委員会の取り組みについて、指標に基づく効果を確認する
- ・効果検証にあたり、必要となるデータを収集・分析する
- ・取り組みの実施にあたり、参考となる事例等を紹介する

①ケガや事故のデータ収集・分析

秩父市の外傷状況（救急搬送データ①）

認証後、救急搬送件数は減少傾向にある。

図表9

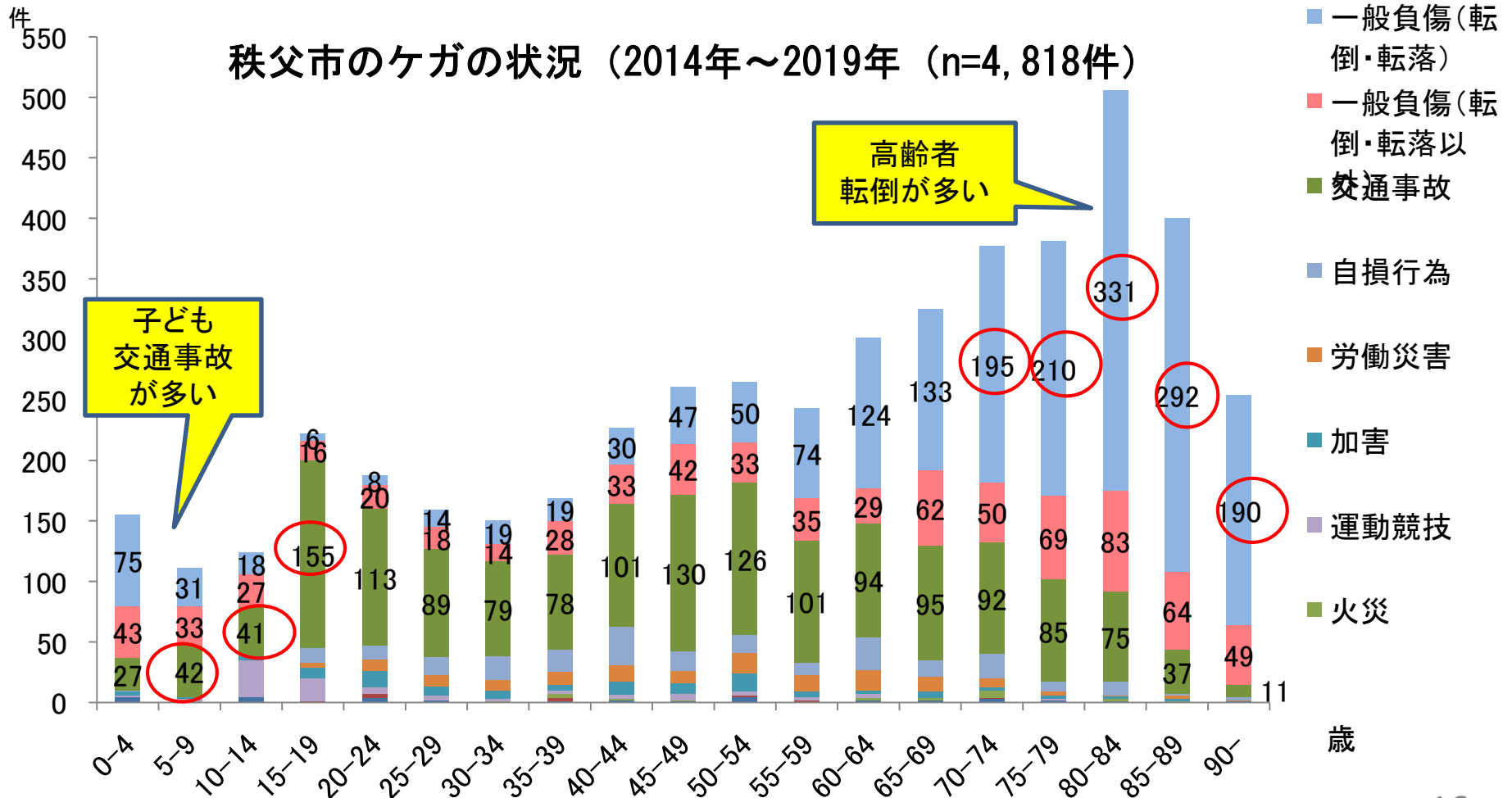


SC国際認証

①ケガや事故のデータ収集・分析

秩父市の外傷状況（救急搬送データ②）

図表10 子どもは「交通事故」、高齢者は「転倒・転落」による搬送が多い。



①ケガや事故のデータ収集・分析

市立病院データ①

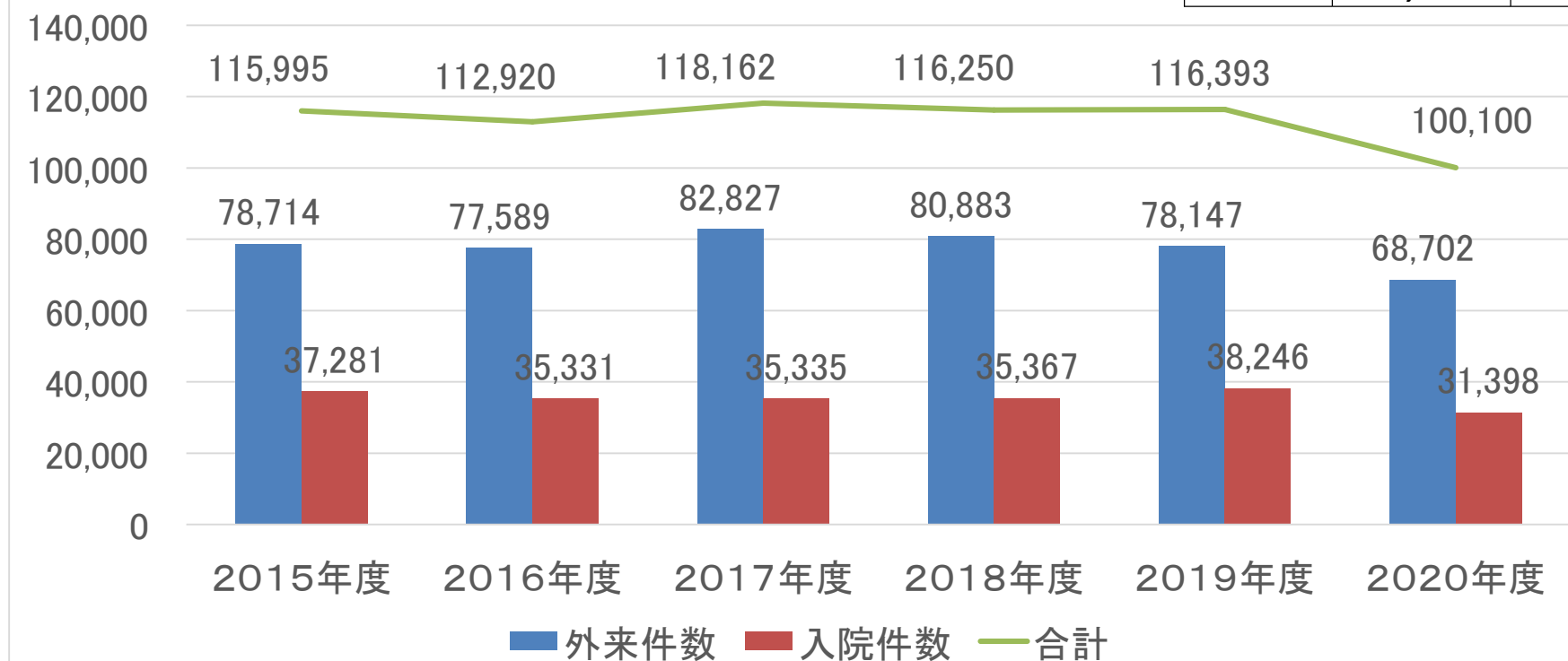
人口(各年4月1日現在)と患者数の割合

年度	人数	割合
2016	64,989	174%
2017	64,168	184%
2018	63,365	183%
2019	62,513	186%
2020	61,667	162%

毎年約11万人の方がかかる秩父市内の中核的な病院である。通院が約68%、入院が約32%の割合となっている。

図表11

受診者数



①ケガや事故のデータ収集・分析

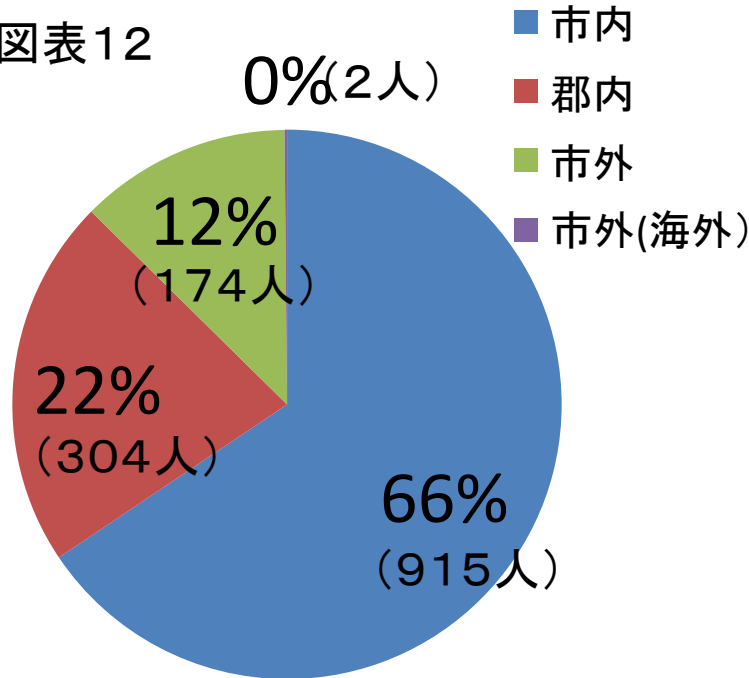
市立病院データ②(外傷状況2017年)

出典: 秩父市立病院

受診者は、市内が66%、郡内が22%、秩父地域で約9割
 年齢層は、0~4歳が最も多く、次いで40~49歳で受診者が多い

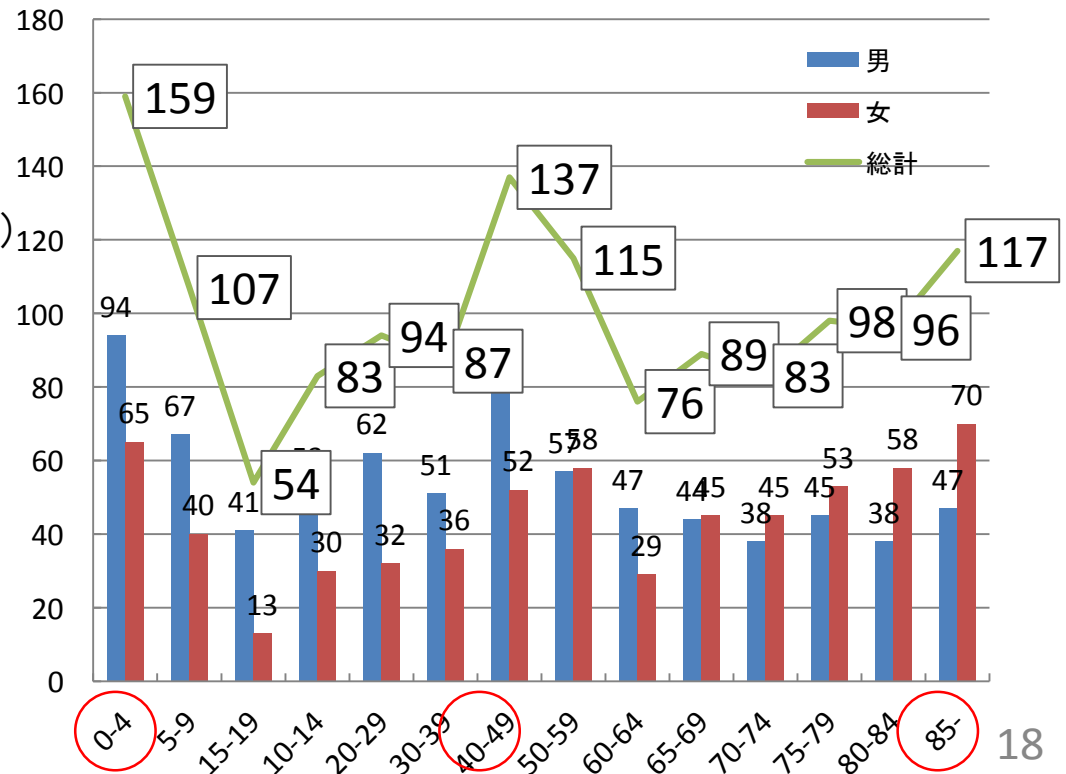
●受診者居住状況

図表12



●年齢別受診者数

図表13



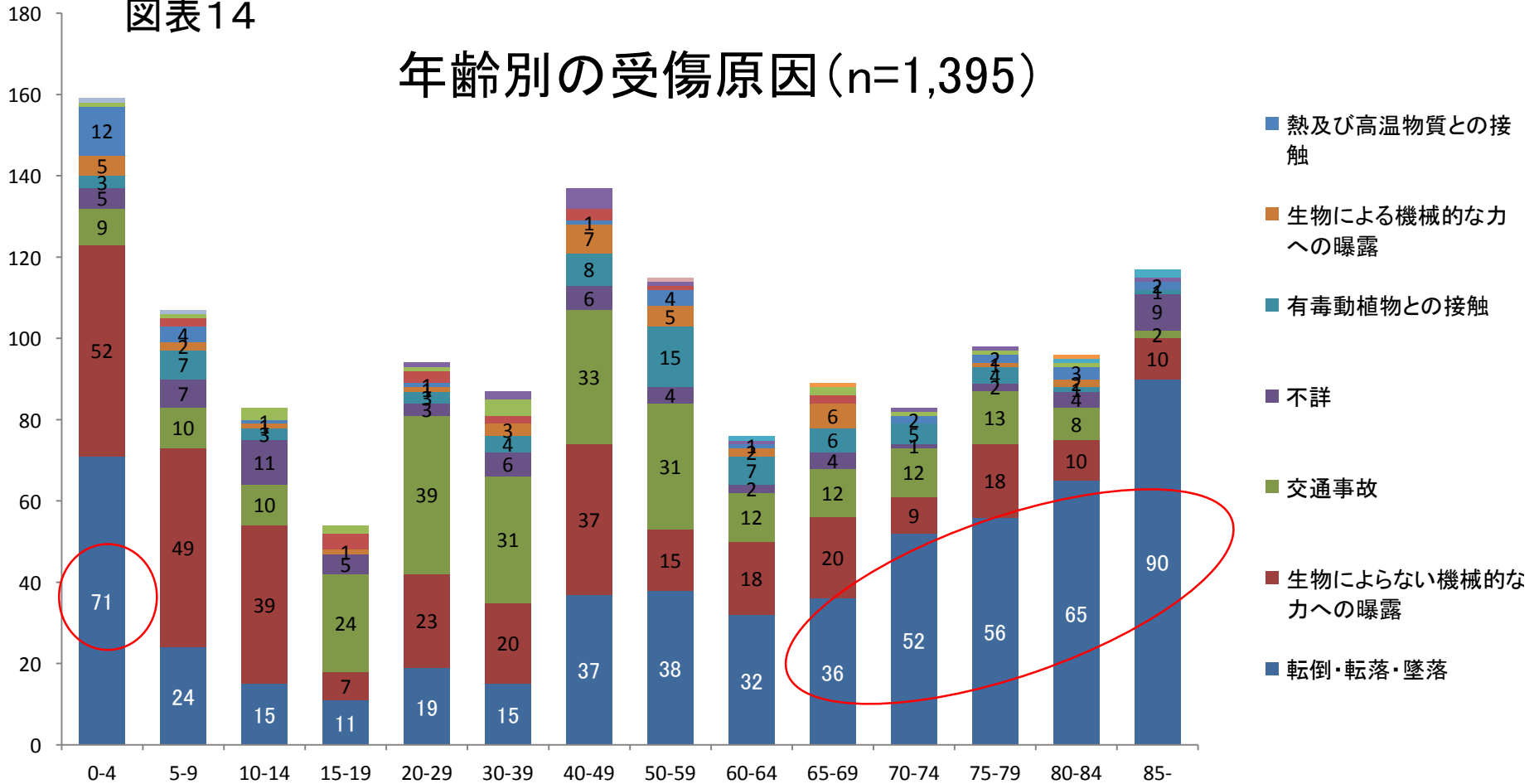
①ケガや事故のデータ収集・分析

市立病院データ③(外傷状況2017年)

0～4歳、65歳以上で、転倒・転落・墜落が原因での受傷が多い

図表14

年齢別の受傷原因 (n=1,395)

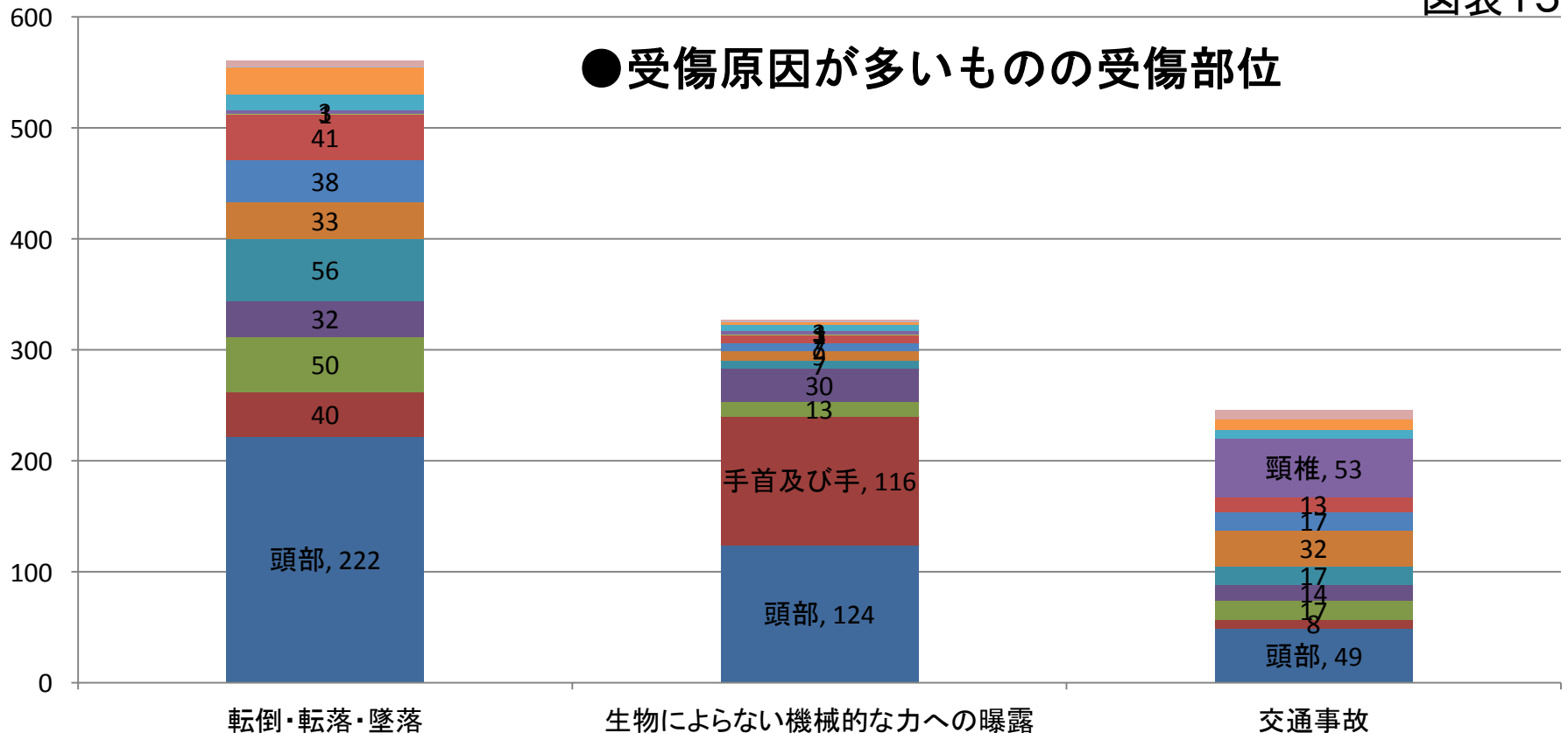


①ケガや事故のデータ収集・分析

市立病院データ④(外傷状況2017)

- ・転倒・転落・墜落では、頭部をケガしている
- ・生物によらない機械的な力への暴露では、頭部と手部でケガをしている
- ・交通事故では、頸椎と頭部で負傷している

図表15



①ケガや事故のデータ収集・分析

新たなデータの収集・分析事例

図表17

図表16



システム入力年月日 ____年__月__日
 現場番号(00): _____ 記入年月日: ____年__月__日
事故調査シート 記入者: _____ 園 長 _____ 教 師 _____
 施設名: _____ 園 名 _____ 園 種 _____

1. 性別 男・女 2. 氏名 _____
 3. 身長 _____cm 4. 体重 _____kg
 5. 生年月日 ____年__月__日生

事故の情報

5. 事故がおきた日時
 ____年__月__日 午前・午後 ____時__分ごろ

6. 事故が起きたときにやっていたこと
 室内遊び 戸外遊び 散歩 トイレ
 水遊び 給食・おやつ 午睡 降園
 延長保育 その他()

7. けがの種類
 打撲・打ち身 すり傷 切傷 さし傷
 やけど 骨折 閉口 捻挫
 その他()

8. 治療内容
 その場で治療(消毒、ばんそうこうなど)
 治療の必要なし 病院にいく必要あり

9. 事故の種類
 転んだ 落ちた ぶつかった・ぶつけられた
 ほきんだ 切った やけど けんか
 別室 交通事故
 その他()

10-1. “ころんだ”・“ぶつかった・ぶつけられた”の事故の場合
 なぜ、転んだ・ぶつかったのですか? ()
 ぶつかったもの(人) ()
 ぶつかったものの材質 ()

10-2. “落ちた”事故の場合
 どんなものから落ちましたか ()
 落ちた高さ? ()cm
 ぶつかったもの(人) ()
 ぶつかったものの材質 ()

11. 事故の直前に何をしていたか? ()

12. 事故・怪害に関係のあったもの・人 ()

13. 事故が起きた場所はどこですか?
 保育室 ホール 廊下 階段
 玄関 トイレ ベランダ 園庭
 プール 手洗い場 運動場 公園
 その他()

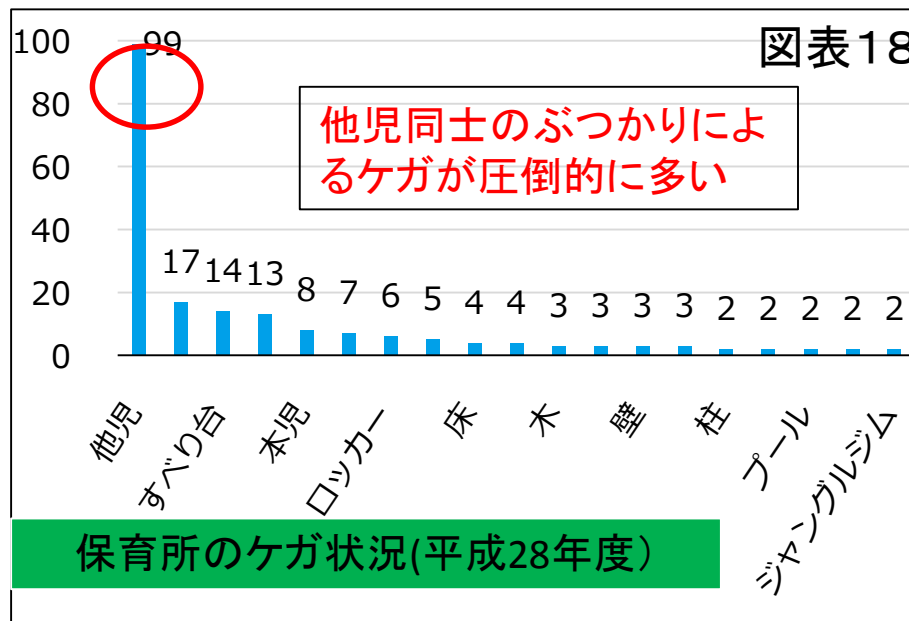
14. 事故の詳細な状況や、気づいたことを記入してください

怪害をした部分を塗ってください。
 複数の箇所が怪害ある場合は、複数の箇所も記入してください。

全身 左側 後ろ 右側

年 度	市立保育所でのケガ発生件数(全5施設)
2016年度	362件
2017年度	186件
2018年度	297件
2019年度	400件
2020年度	540件

図表18



②効果や影響などの測定・評価

各対策委員会へのアドバイス(助言・提案)1

図表19

対策委員会	本委員会からの指導・助言(意見)
交通安全	①被害者だけでなく事故を起こす高齢者のデータを収集 ②保険会社や自転車・自動車の販売店のデータも確認
高齢者の安全	①救急搬送「件数」だけではなく、「割合」も示す ②現在の高齢者対象サロンに、子どもも巻き込む
子どもの安全	①受傷件数と併せて、発生割合もみていく ②件数だけでなく、その背景も見る →練習量の増加など、受傷要因を考察

②効果や影響などの測定・評価

各対策委員会へのアドバイス(助言・提案)2

図表20

対策委員会	本委員会からの指導・助言(意見)
犯罪の防止	<p>①実績が上がっているが市民の不安感が高い。他自治体を参考に、活動をしていることをアピールする</p> <p>②一般の方は自転車盗に関心が低い。防犯登録の徹底と自転車盗が犯罪であることを認識してもらう</p>
自然の中での安全	<p>①遭難者の位置を把握するため、GPSの活用を呼びかける</p> <p>②登山届をデータとして使えないか検証(登山道単位で遭難者の傾向を把握)</p>
自殺予防対策	<p>①飛降り防止看板の設置場所での自殺件数の増減を確認→夜間見えるような工夫を</p> <p>②職場の悩みが関連している部分もあるため、職場からのアプローチを検討</p>

②効果や影響などの測定・評価

各対策委員会へのアドバイス(助言・提案)3

図表21

対策委員会	本委員会からの指導・助言(意見)
災害時の安全	<p>①火災、地震、大雪に対する不安度が高く、実際に危険性が高い土砂崩れの不安度は低い →リスクが高い災害に焦点を当てて対応を検討</p> <p>②要援護者支援制度の情報の取扱いについて、個人情報が開示できるよう工夫していく必要がある</p>
全体	<p>①対策委員会間で協力や情報共有を行い、課題が重複する部分は、定期的に合同対策委員会を行う</p> <p>②イベント等で取組みの報告だけでなく、参加者が行える取組みも伝える</p>

②効果や影響などの測定・評価

対策委員会の改善事例1

図表22

助言・提案	対応
★高齢者人口は増加、子どもの人口は減少していることから、ケガの割合も同時に確認する	割合も同時に示し、検証していく
★自転車盗に関心が低いため、防犯登録の徹底と自転車盗が犯罪であることを認識させる	市報を通して、また公立小中学校へ文書で防犯登録の推進を呼び掛けた 街頭キャンペーンでリーフレットを配布し、自転車盗は犯罪であることを注意喚起
★登山者の遭難ポイントが把握できるため、GPSの活用を呼びかけていく	啓発キャンペーンにおいて、啓発チラシを新たに作成し、GPSの活用も呼びかけた

②効果や影響などの測定・評価

対策委員会の改善事例2

図表23

助言・提案

対応

★土砂崩れなどのリスクが高いものに焦点をあてて、取組みを呼びかける



地域の方と協働で、土砂災害に特化した逃げ地図(避難計画図)を作成し、地区防災計画の策定まで結びつける

★関連する対策委員会が連携して取組みを研究する



関連性が高い「子ども・高齢者・交通」で合同対策委員会を定期的に行なう

★イベント時に「参加者ができる取組み」を呼びかける

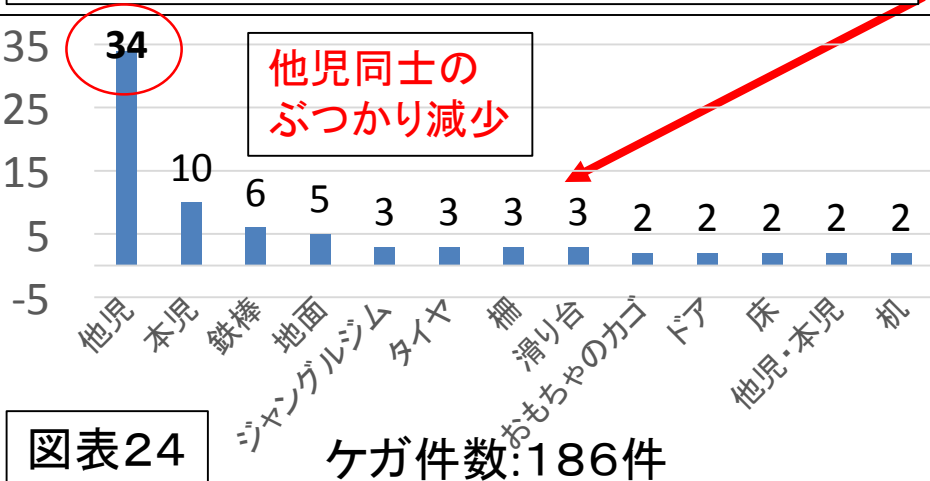
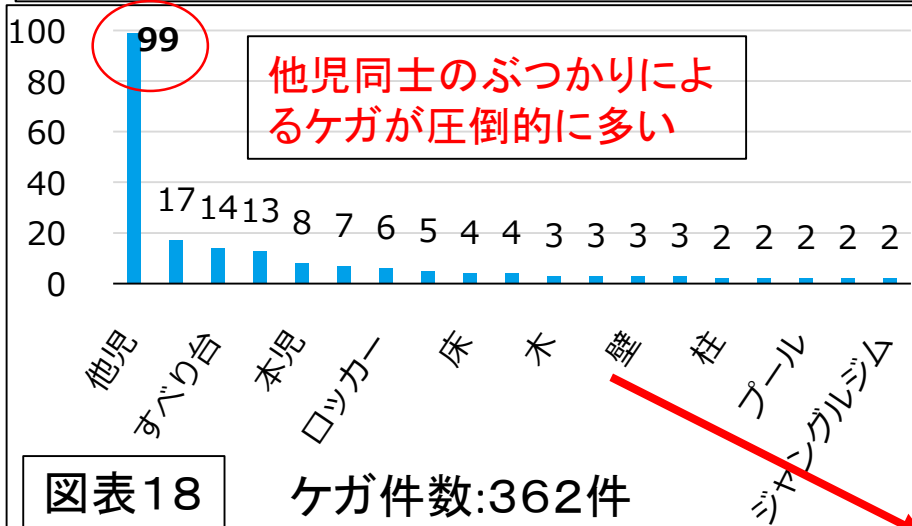


参加者がすぐにできるセーフコミュニティ活動を記念イベントで呼び掛け開始

②効果や影響などの測定・評価

対策委員会の改善事例

新たなデータの収集・分析事例



取組み開始

写真②



危険箇所を考え、対応する力を養う

写真③

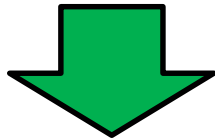


4 安全・安心なまちづくり アンケート

市民安全安心なまちづくりアンケート調査

市民アンケートの特徴

- 生活上の不安感や体感治安など、意識部分の把握が可能
- 医療機関につながらないヒヤリはっと情報を把握する



2019年アンケートでは、
成果指標を見るための項目追加

2013年6月

対象:3,000世帯(無作為抽出)
回答数:1,229人
回収率:41.0%

2016年9月

対象:3,000世帯(無作為抽出)
回答数:1,368人
回収率:45.6%

2019年5月

対象:3,000人(無作為抽出)
回答数:1,249人
回収率:41.6%

サーベイランス委員会が
アンケート内容の検討・分析を実施

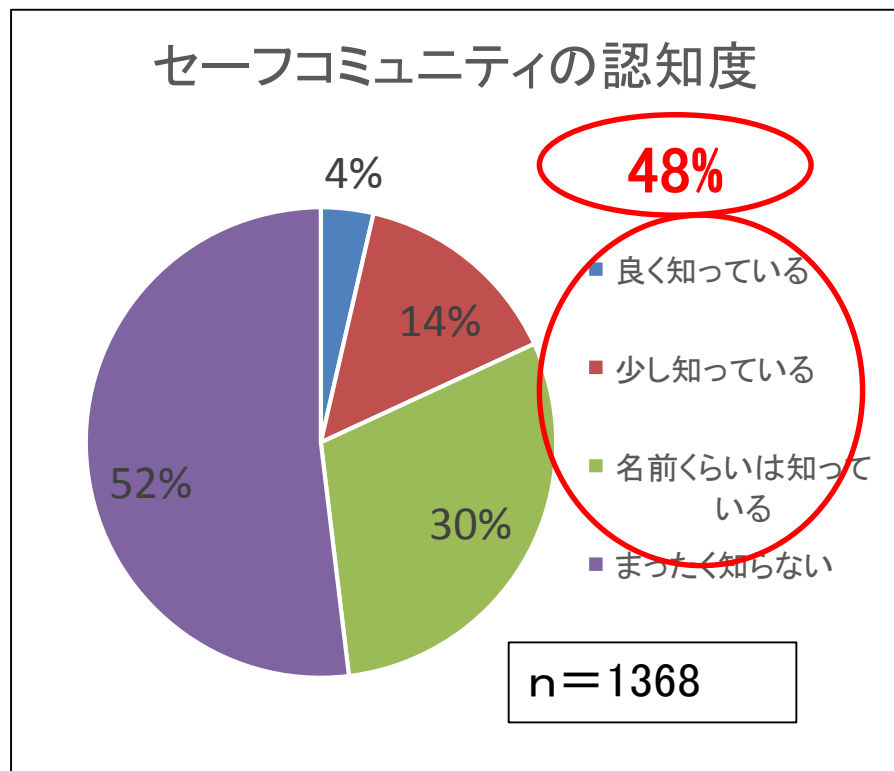
セーフコミュニティアンケート

セーフコミュニティの認知度が低い

図表25

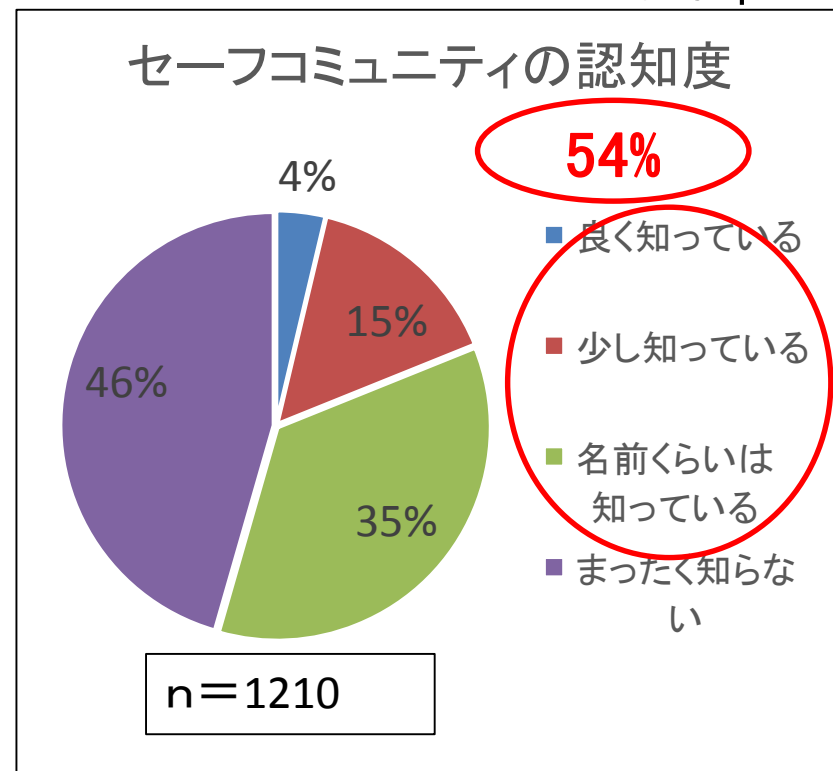
2016年

セーフコミュニティを知っているか？



図表26

2019年



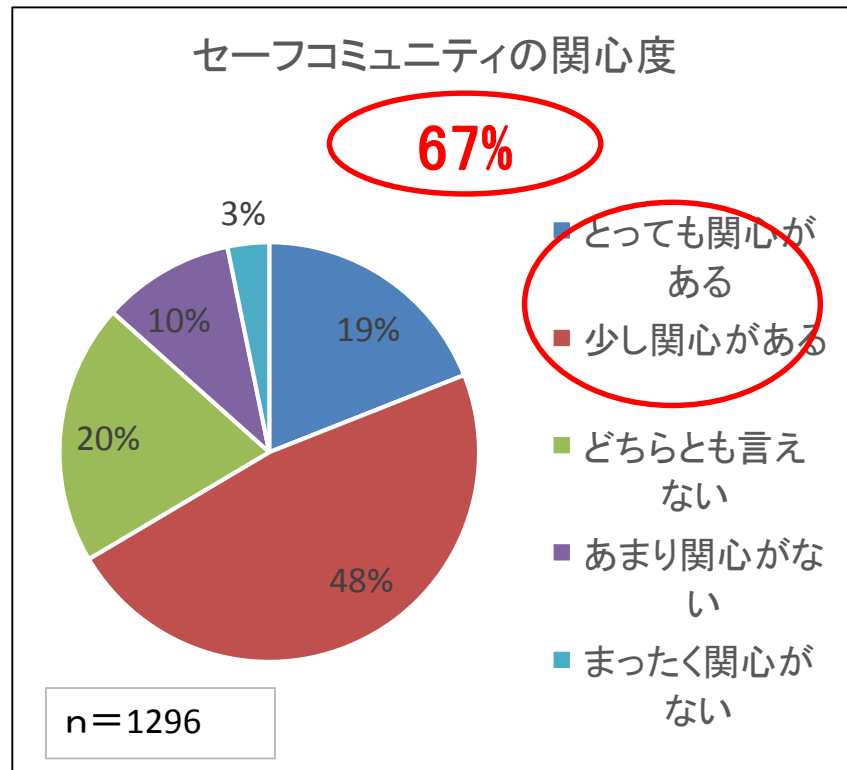
セーフコミュニティアンケート

セーフコミュニティへの関心はある

セーフコミュニティに関心があるか？

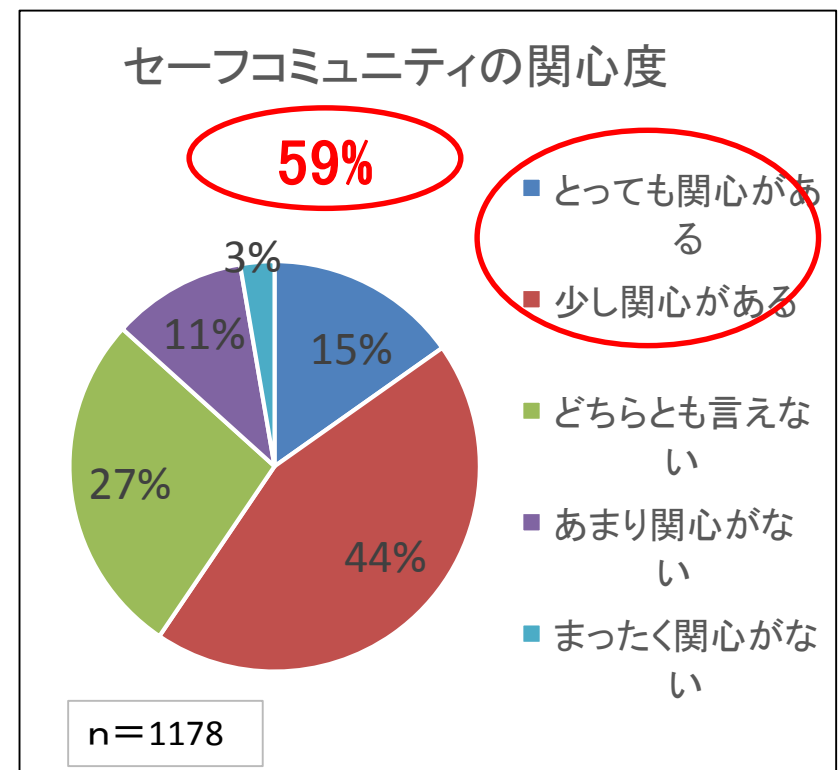
2016年

図表27



図表28

2019年

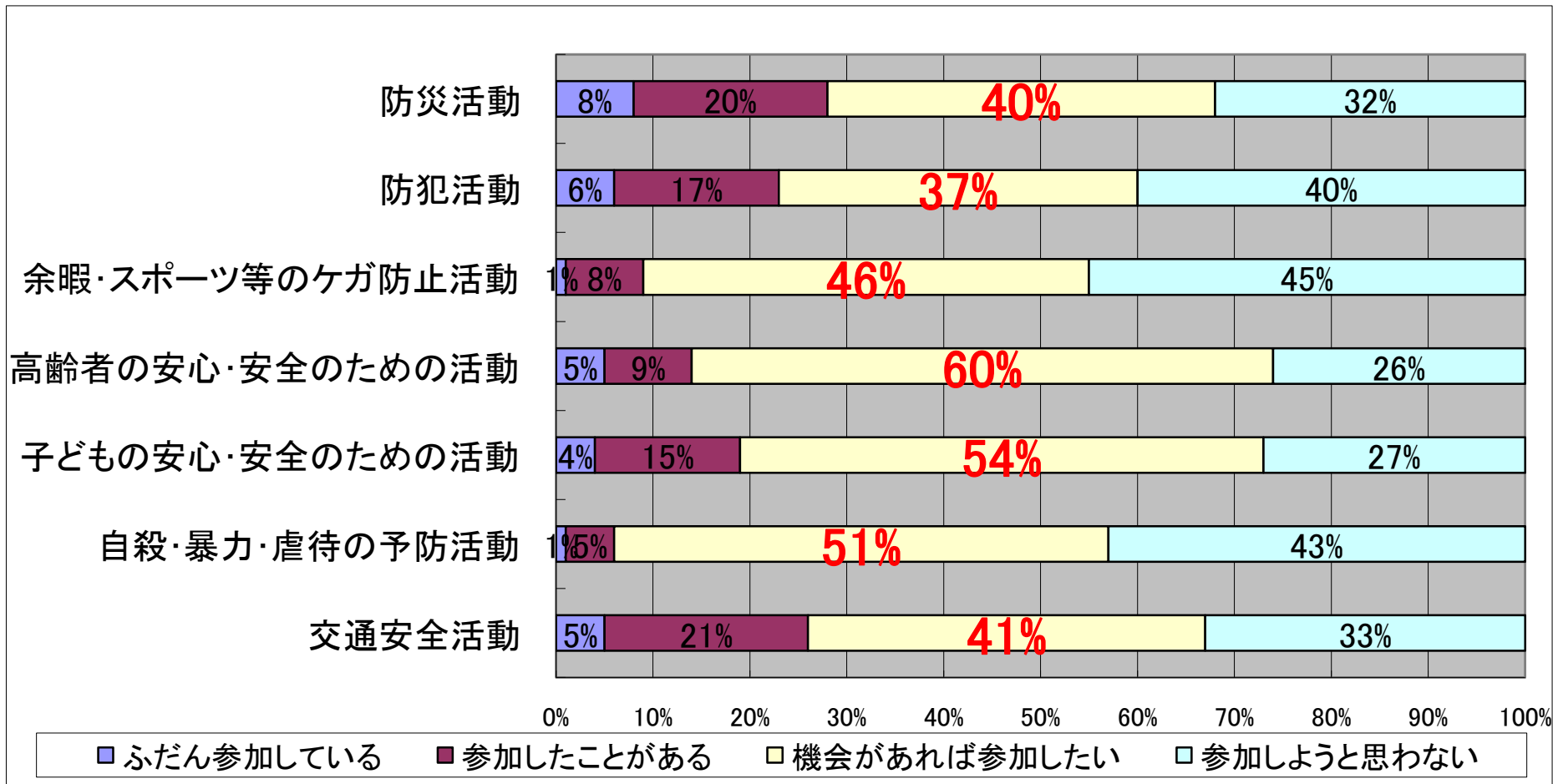


安全・安心なまちづくりアンケート

ばらつきはあるが、平均して約5人に一人が参加経験がある機会があれば参加したいと回答した人は、約2人に一人

図表29

地域活動への参加について



○OSC認知度が低い

認知度

本委員会より指導・助言
認知度や関心度を上げるため、
参加側の人間を増やす



市民協働(参加型)の取組みを検討

関心度

参加
意欲

○OSC関心度はあるが下降傾向

○参加意欲はある(機会があれば参加したい)人が多い

SCアンケートの分析結果を活用



市民協働（参加型）の取組みへ

市民参加型の取組事例

市民が気軽に実践できる取組が始まる

- ① 隣組長による見守り協力
- ② 犯罪や事故を目撃した際の通報システム
- ③ セーフドライブプロジェクト
- ④ 地域ボランティア除雪隊
- ⑤ 地域の逃げ地図、防災計画の策定
- ⑥ 通報体制の強化
- ⑦ 子どもの登下校の見守り

市民参加型の取組事例

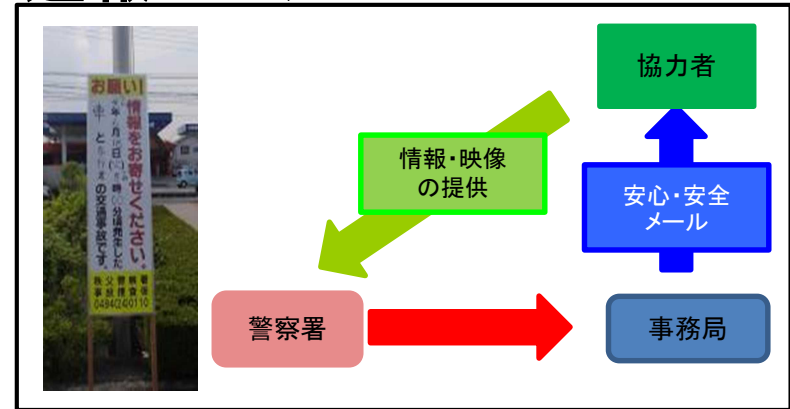
①隣組長による見守り協力



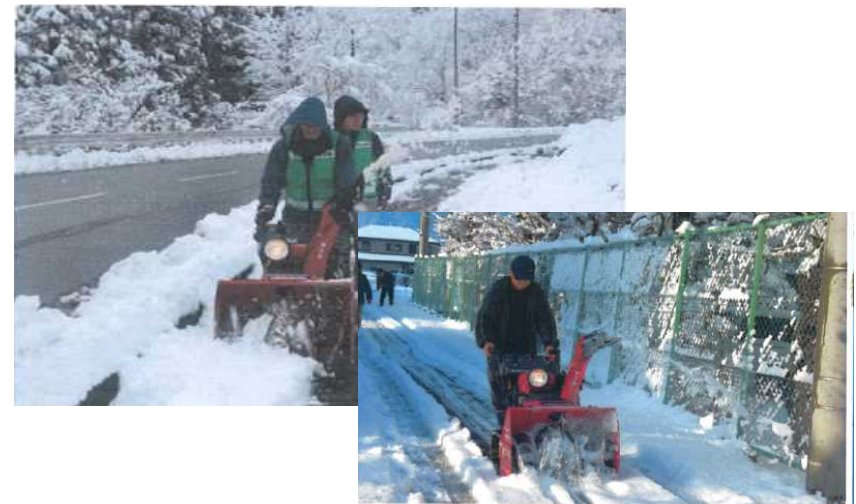
③セーフドライブプロジェクト



②犯罪や事故を目撃した際の通報システム



④地域ボランティア除雪隊



市民参加型の取組事例

⑤地域の逃げ地図、防災計画の策定



⑦子どもの登下校の見守り

小学生が下校する時刻にあわせて「見守り放送」を開始。放送が聞こえたら、外にでて見守りをお願いしている。

⑥通報体制の強化

～みんなで作る安全・安心なまち～
高齢者や子どもの虐待、DVの通報を見て見ぬふいをしない
すぐ通報！

皆様、一人一人のお力が必要です

虐待のサイン

- ①泣き声や怒鳴り声が聞こえる
- ②頻りにケガをしている
- ③衣服がこわれている、家族から放任や暴力を受けている様子がある

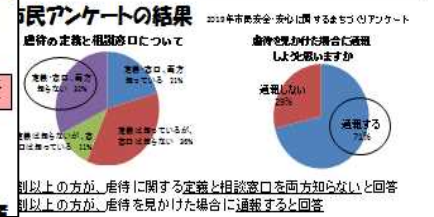
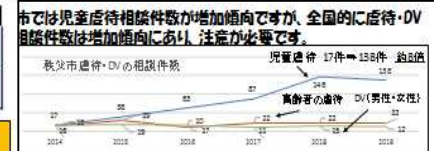
～様子のおかしい子どもや高齢者など～ **見逃さない**

埼玉県虐待通報ダイヤル **#7171**
★24時間365日対応

- ・秩父警察署 Tel.24-0110
- ・小鹿野警察署 Tel.75-0110

●連絡先や連絡内容に関する秘密は守られます
●生命に危険があるなど緊急の場合は、地域の警察署あるいは110番へ

埼玉県コミュニティ高齢者・子どもの安全対策委員会、埼玉県、秩父警察署、小鹿野警察署



虐待とは

埼玉県虐待禁止条例では、虐待に該当する行為を下記の5つの類型で定めています

- ①身体的虐待
 - ・殴る、踏むなどの暴力をふるう
 - ・車に押し込める、重さを突りするなどの危険にさらす など
- ②シグナル(放置・放棄)
 - ・必要な医療、福祉のサービスを受けさせない
 - ・食料を与えない、入浴をさせない、世話をしない など
- ③経済的虐待
 - ・日常生活に必要な現金を渡さない、使わせない
 - ・年金や貯蓄などを勝手に使う、処分するなど
- ④性的虐待
 - ・子どもへの性的行為をする、性行為を強要する
 - ・わいせつ映像等を見せる など
- ⑤心理的虐待
 - ・子どもの目の前で家族に対して暴力をふるう
 - ・からかう、侮辱する、誹謗する など

●該当する場合は、自分一人で抱え込まず、虐待通報ダイヤル等に電話をしてください



5 新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルスへの対応

- 迅速に2019年と2020年の救急搬送データを比較し、受傷傾向を確認
- 全国の動向等を比較しつつ、事前にリスクを検討できた(虐待や自殺の増加等)
- SCで培ったネットワークやノウハウをコロナ対策に適応するよう提案

委員会設置の成果

成果①: 傷関連データ等の収集・分析が可能になった。

成果②: 専門的な視点からのデータ分析が可能になった。

成果③: 対策委員会に評価結果のフィードバックと提案・助言を行えるようになった。

成果④: データ分析を参考に、新たな市民協働の取組みが始まった

成果⑤: コロナ対策による影響等の議論ができ、SCを通して取組みにつながった

課題と今後の方向性

問題：市民病院以外の受診データは把握できていない



課題：現在の仕組み・方法では継続的なデータ収集と分析は難しい



方向性：医療機関の負担になりにくい外傷データの収集方法を検討

ご清聴ありがとうございました



A SAFE COMMUNITY

国際認証都市
セーフコミュニティちちぶ

